

## 受け入れ人数の推移

近年、日本各地の中学校や高校が体験型旅行に興味を示し、修学旅行に体験型旅行を取り入れるようになりました。

本市の体験型旅行受け入れは、受け入れを始めた平成15年度は約1,000人でしたが、年々増え、今年度は約15,000人を受け入れる予定です。

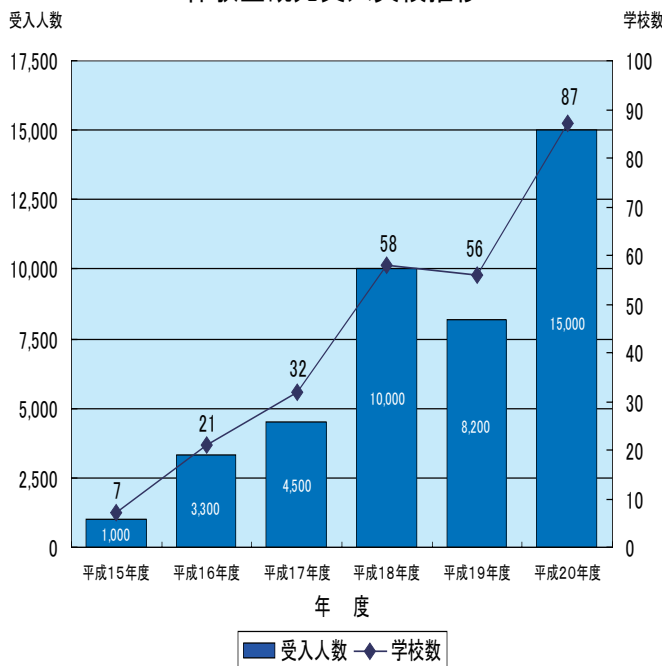
本市を訪れる修学旅行生は関東・関西方面からが多く、

学校によっては、翌年度以降も訪れるリピーターも少なくありません。

## 「オーライ！ニッポン大賞」グランプリ受賞

民泊受け入れ先やインストラクターなど地域の努力により、本市の体験型旅行は全国から注目を浴びてきました。その結果、平成19年3月に松浦体験型旅行協議会は、NPO法人体験観光ネットワーク松浦党とともに「オーライ！ニッポン大賞」のグランプリを受賞しました。

## 体験型観光受入実績推移



「体験型教育旅行の先進事例であり、地域住民に無理のない形で活動が組み立てられていて、今後の展開が大いに期待される」などの高い評価を得ての受賞となりました。

## 「ほんもの体験日本一のまちづくり」宣言

市は、平成18年度に受け入れ人数10,000人を突破したことや、「オーライ！ニッポン大賞」でグランプリを受賞したことなどを受けて、平成19年9月20日にほんもの体験日本一のまちづくり宣言をしました。宣言を通じて体験型旅行事業への市民意識を高め、官民一体で取り組んでいくこととしたものです。

## 松浦市ほんもの体験日本一のまちづくり宣言

松浦市民は、豊かな自然の中で多様な生業を営みながら築いてきた独自の文化を大切に守り、貴重な財産として後世に引き継がなければなりません。

私たちは、体験交流で松浦市を訪れた人々に、ありのままの「ほんもの」の地域文化に触れる機会を提供することで、食べる喜び、心が通じ合う喜び、自然に囲まれて働きたいと願っています。

私たち松浦市民は、誇りを持ってこれらの地域文化を提供し、体験交流を新たな産業として育て、魅力あるまちづくりをすすめるために、「ここに「ほんもの体験日本一のまちづくり」を宣言します。」

(平成19年9月20日告示)





# 交流を通して得られるもの

4月22日から今年度の春季体験型旅行の受け入れが始まりました。

6月11日、12日には、横浜市立奈良中学校の修学旅行生（306人）が松浦市を訪れました。ここでは、田代地区と上志佐地区での体験の様子を紹介します。

## 出会い

6月11日午後6時ごろ、奈良中学校の受け入れ地区の一つである田代営農センターで対面式が行われ、奈良中学校の修学旅行生と田代地区の民泊受け入れ家族が初めて顔を合わせました。

「対面式での子どもたちの表情は堅いでしょう。でも、明日民泊と体験を終えた子どもたちの表情を見てください。まったく違った表情になっていきますから」と田代地区グリーン・ツーリズム研究会会長の岩木保徳さん。これから奈良中3年生の生徒と地域の人々との深い交流が始まります。



## 民泊体験

民泊体験では、修学旅行生もお客さまではなく、家族の一員として迎え、料理など家事全般を行います。生徒たちは、民泊先の家族全員と楽しく会話をしながら食事をし、交流を深めました。



### 民泊体験者

写真前列左から住吉秀太君、杉安亮哉君  
後列左から鶴田佳輔君、宮澤修人君

民泊先の家族はとても親切で親しみやすかったです。人の優しさに触れ、もう一つ家族ができたよううでうれしかったです。畑で採ってきた野菜がみずみずしくて、これが野菜の本物の味だと感激しました。機会があれば、ぜひまた来たいです。

もう一つの家族が  
できたよう

## 地域と自分を 元気にしてくれる



民泊受入  
田中和枝さん

(御厨・板橋、67)

自分も磨け、地域の発展にもつながると受け入れを始め、今年で5年目になります。私の家では、年間約70人を受け入れています。子どもたちは大変かわいく、いつも家族の一員として接していますよ。地域の人と助け合いながら、楽しくやりがいをもって受け入れをしています。体験型旅行は、受け入れ地域と自分を元気にしてくれますね。